

平成 30 年 3 月 1 日

神奈川県知事 黒岩 祐治 殿

神奈川県ボランティア活動推進基金審査会
会 長 長 坂 寿 久

平成 30 年度実施分協働事業負担金の対象事業の決定について（答申）

平成 29 年 7 月 28 日付け県サ第 12 号および、平成 29 年 8 月 14 日付け県サ第 13 号を以って諮問のあった標記について、別紙のとおり答申します。

問合せ先

神奈川県ボランティア活動推進基金審査会事務局 菅原

電話 045-312-1121（内線 2832）

平成 30 年度実施分協働事業負担金の対象事業の決定について

1 選考結果

(継続事業・一般部門)

番号	申請者名	事業名	負担金額(千円)
1	NPO法人 ミニシティ・プラス	特命子ども地域アクタープロジェクト	3,919
2	特定非営利活動法人 JAMネットワーク	神奈川県の子供養護施設における 子どもの自立支援事業	3,960
3	特定非営利活動法人 ReBit	性的マイノリティの子どもに理解 のある支援者育成事業	4,613
4	特定非営利活動法人 STスポット横浜	地域における障害者の文化芸術 体験活動支援事業	7,942

(継続事業・課題部門)

番号	申請者名	事業名	負担金額(千円)
5	特定非営利活動法人 横浜メンタルサービスネット ワーク	精神疾患や発達障がいの狭間に いる若者の就学・就労を目指した 自立支援	6,800
6	NPO法人 多文化共生教育ネットワーク かながわ	就職弱者の若者へのキャリア支 援事業	6,000
7	特定非営利活動法人 セカンドリーグ神奈川	「食」と「地域」をつなぎ神奈川 から貧困をなくすためのK- model 構築事業	7,066

(継続事業・特定課題枠)

番号	申請者名	事業名	負担金額(千円)
8	特定非営利活動法人 横浜プランナーズネットワー ク	空き家等の利活用による地域の 魅力アップ事業	9,800
9	かながわ生活困窮者自立支援 ネットワーク	生活困窮者の自立支援ネットワー クの形成	10,000

10	特定非営利活動法人 高津総合型スポーツクラブS E L F	特別支援学校等における障害者の 地域でのスポーツ参加促進モデル 構築事業	7, 942
----	-------------------------------------	--	--------

(新規事業・一般部門)

番号	申請者名	事業名	負担金額(千円)
11	特定非営利活動法人 A B C ジャパン	外国につながる子ども・若者と家 族の包括的支援	6, 000
12	N P O 法人 横浜こどもホスピスプロジェ クト	横浜こどもホスピス設立運営事業	2, 500

(新規事業・特定課題枠)

番号	申請者名	事業名	負担金額(千円)
13	特定非営利活動法人 キャンサーネットジャパン	造血幹細胞移植総合支援プロジェ クト事業	8, 357
14	神奈川骨髄移植を考える会	骨髄ドナー登録推進事業	3, 880
15	特定非営利活動法人 横浜移動サービス協議会	アクティブエイジ応援プロジェク ト	8, 188
16	特定非営利活動法人 湘南スタイル	湘南ワンハンドレッドプロジェクト	8, 724

2 意見

(1) 継続事業

N P O 法人ミニシティ・プラス

特命アクターの子どもたちが、地域のこども達を巻き込み、さらに大人たちを前向きに巻き込むことで、地域活動の活発化につながり、そして地域課題の解決につながるという好循環が生まれているということは、大変大きな成果であると思います。

今後の自立の道を確認するにあたり、川崎市からの事業や、商店街からの支えなどの新しい道の開拓、また運営面ではこどもたちが運営側にまわれるようになってきていること、特命アクターへの研修の仕方やその後のフォローのノウハウなど、地域における自立できる仕組みとして、大いに期待しています。

特にそれらを実現するために大切にされていることとして、こどもと大人をつなぐコ

ーディネートの役割が大事であるともうかがい、そのノウハウも、是非、可視化してもらえるとより汎用性の高いものになっていくものと期待します。

一方、子どもたちの申請件数へ応えるための増額申請がされている箇所は、最終年度の総括とした見地から、残念ながら認められませんでした。

今回が最終年度となるため、基金活動から自立への在り方のモデルを是非、提示してもらうことで、多くの団体の見本となってほしいと思います。

その際、提案されている認定 NPO 申請、クラウドファンディングや SNS の使用などのみならず、地域の商店街等で自主的に運営していける仕組みづくりを視野に入れた自立への方策なども検討してほしいと思います。

そして、報告書はこれまでの成果を踏まえたノウハウ集として、特命子どもアクター事業のノウハウや付加価値の整理とともに、それまでの派遣先との関係性の持続や、自立への基金システムの模索なども含んだ汎用性あるものが出来上がることを期待しています。

特定非営利活動法人 JAM ネットワーク

現状における課題認識からなる課題解決に向けた本事業の取組みは、繊細で根気がいるものであるのと同時に、大変重要な取組みであると認識しております。事業開始以降、着実な継続と発展をされているものと高く評価しております。

事業1「自立支援プログラム実施事業」においては、今回より、児童養護施設に入所する子ども達の就労支援を見据え、「フェアスタート」と連携し、お互いの役割分担を明確にすることで、より発展的な支援につなげることでスタートすることに大いに期待しています。

また、事業を継続的に実施していくためには、事業2「職員研修事業」、事業3「サポータースタッフ養成事業」がより重要になると思います。その中で、「支援される側から支援する側へ」をスローガンにかかげ、今回、過去に支援を受けていた高校生が支援スタッフとして参加するという好事例が生まれたと伺いました。この高校生が何故このように変化できたかという動機や、これまでの支援方法などをしっかりと整理され、次につなげられることを大いに期待したいです。

一方、この課題、そして課題解決のために行っている事業内容は、学校との連携が必須であると認識しています。是非、協働部署との協働により、学校との連携の道を模索していただきたいです。

なお、事業予算に関し、研修回数を増加したこと等に対する増額分は、自立に向けた見地から、残念ながら認められませんでした。

最終年度を控え、自立に向けた取組みとし、企業からの委託や寄付、クラウドファンディングなどの具体的な計画や見込みが不透明であったため、方向性を確立されるよう是非、お願いいたします。

最後に、すでに「神奈川モデル」として、神奈川県内にとどまらず、全国への展開の事例もあるとうかがいました。さらにこの事例を活かし、目標とされている「全国の児童養護施設」へ波及することを心より願っています。

特定非営利活動法人 R e B i t

審査の結果、17年度提案額と同額の496万3千円を協議対象事業経費とし、増額申請の254万3千円は認めないことになりました。事業展開に関しては、2018年度の新規事業を含め、協議対象として認めた金額の範囲内で実施するようお願いいたします。

LGBTへの理解は広がりつつあり、これに対して貴団体が果たしてきた役割は大きいことは、審査会でも一致した意見であります。就労支援については、そのステージから排除されるようなことがあれば、それは社会全体から排除されることと同じで、孤立を招き、さらには貧困に陥りかねない危険性を抱えております。こうした状況を防ぐために、私たちはLGBTの就労問題を社会課題として共有し、よりよい支援策を構築していかなければいけないと考えます。2017年度に横須賀市で「若者のための地域出張相談」を新たに始めたこと自体は高く評価しています。

審査会では、貴団体に、就労支援に軸足を置いた事業展開をお願いしてきましたし、貴団体はそういう事業展開をしてきたものと理解しております。この方針を継承し、昨年11月のプレゼンテーション審査の際のコメントにあった「当事者に寄り添った就労支援プログラムの構築」を確実に進めるとともに、当事者目線の事業展開になお一層、注力してほしいと思います。

今回、審査対象となった2018年度の事業は協働事業としては4年目となり、協働事業が終了する6年目以降を展望した事業計画がなければならぬと考えます。昨年コメントでは事業継続に関しても触れています。申請のあった新規5事業の必要性を否定するものではありませんが、来年度事業は就労支援という足元をしっかりと踏まえ、終了後を見据えた継続性ある事業展開を期待しております。

※上記コメントは協議対象決定時点（11/21）のもの。

2/15 審査会にて申請金額4,613千円で承認された。

特定非営利活動法人 S T スポット横浜

「地域における障害者の文化芸術体験活動支援事業」は、「誰もがアートに触れ合う」ことを目指した「S T スポット横浜」のミッションとマッチした事業だと思います。

実際に、演劇のワークショップを見学しましたが、普段は表情が表に出ない重度の知的障害者が生き生きとした表情に変化することを見て、意義のある事業だと実感しました。

1年目（今年度）の横浜市内で得た事業のノウハウを生かしながら、2年目（来年度）は横浜市外での事業も積極的に展開してください。

さらに、今後は、協働事業終了後を見据え、自立に向けての努力をしてください。具体的には、テレビ局、ラジオ局、新聞社などのメディア向けの広報に加え、ワークショップの動画を撮影してYouTubeにアップするなどの情報発信活動も検討することなどによって、「S T スポット横浜」を知らない人にも、この事業のよさを知ってもらい、かつ参加者も増えていくような広報展開を検討してほしいと思います。知名度のアップ、更には、この事業のファンを増やすことによって、協働事業終了後に向けた財源の確保といった展開も開けていくのではないかと思います。

障がいのある人もない人も、演劇、ダンス、音楽などのアートに触れ合うことによっ

て、楽しい気持ち、愉快的気持ちを持つことを、不特定多数の人に情報発信することはこの事業の義務です。次年度は、協働事業終了後の自立に向け、他の障がい者団体との交流なども含めた具体的なプログラムの作成を期待しています。

※上記コメントは協議対象決定時点（11/21）のもの。

2/15 審査会にて申請金額 7,942 千円で承認された。

特定非営利活動法人横浜メンタルサービスネットワーク

医療にも福祉にも関わりを持ちにくい、制度の狭間で置き去りにされる若年層に対し、就労・就学に向けた支援を、当事者の特性を重視したプログラムに基づき実施する当プレジョブスクール事業の社会的意義は極めて大きいものと認識しています。

協働部署の「青少年課」管轄の「ひき☆スタ」等のホームページを見ても、こうした場を求める当事者の声が多く寄せられており、プレジョブスクールのような取組みの重要性を再認識しております。

その意義の大きさにも関わらず、同事業への参加者の確保に苦慮され、募集活動に尽力なされると同時に、開校時期の延期、開校数を削減しているとのことで、いかに効果的な募集を行っていくか、また、多数存在するはずの潜在的な参加者とどうつながることができるかが、事業展開の上で大きな課題であると理解しています。

今回提起された増額分については、上記の課題を克服するため必須の事項と考えますが、その効果的な活用について、ルート及び内容の両面から、一層の精査をお願いいたします。すでに関係機関へのDM、新聞取材記事、タウンニュース、インターネット上の発信等、媒体を使い分けた働きかけをなさってきた上でも参加者の確保が難航しているということですので、従来のルートの効果検証をした上で、絞り込むなり、新たな回路を発掘するなりの努力が、是非、必要と考えます。

併せて、同事業が約8割の参加者が進路先を見出すような高い効果のカリキュラムを有していること、その専門性の高さ、スクール終了後のフォローアップ等も手厚く実施しているなど、「出口」および「その後」に関わる発信も「入り口」に大きく影響するのではないかと指摘も審査の過程で出されました。働きかける先の関心に対応した発信内容の整理が求められると思います。

NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ

申請通りの内容で協議対象事業といたします。

プレゼンテーションでは、2018年度は実施高校が1校増えて10校になるなど、これまでの取組みが結実し始めていることを実感できました。カフェはキャリア支援事業に高校生が参加しやすいよう、事業の入口部分の敷居を低くして取り組んでいる点などは、審査会で高く評価しております。

他方で、カフェ参加者の進路など「出口」については、さらに充実を図っていく必要があるものと考えます。

義務教育を終えた年齢（16歳）で、両親と共に来日する外国につながる子どもたちは

日本語が不十分なまま高校受験に臨むケースが少なくないとも聞きます。

その点で日本語指導の充実が喫緊の課題となっていますが、県内には様々な事業に取り組むボランティア団体もたくさんあります。進学と就職は切っても切れない関係にありますので、ぜひ他団体との連携も進めていただき、子どもたちにとってよりよい事業展開を図ってください。

特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

困窮者支援(フードバンク、子ども食堂等)に、食品ロス削減、エシカル消費、さらには空き家活用を連動させた大がかりな循環構想を、K-Model として描きつつ、徐々に細部の具体化が進んでいるという印象を受けました。中心となっている方々のネットワークの広さもあって、食品提供の申し出と、困窮当事者とを確実につなぐ資源、ルートの開拓が着々となされている様子も、支援イベントの見学を通じて実感しました。

構想が大きいだけに、その全体像と特徴について、内外で理解を共有していくには時間がかかると考えますが、これまで蓄積してきた実績、経験等を「K-Model」に落とし込みつつ、循環がまさに具体的な仕組みとして機能しつつあることを打ち出していく時期にあると感じました。

併せて、当初掲げていたフードバンク立ち上げ支援も、フードバンクだけを独立的に立ち上げるのではなく、子ども食堂の立ち上げ支援と結び付け、また空き家活用も重ねた地域フードバンクの立ち上げとして練り直すなど、複合的な形で再構成することで効果的な動きが生み出されており、まさに走りながら考える挑戦的な試行錯誤であると受け止めています。だからこそ、短期間で事業が膨らみ、今回、スタッフ人件費を含む増額提案に至ったものと理解しています。

協働部署も多く、行政の側からも協働のパートナーとして重視する旨の意見も出されていること、困窮者支援をめぐり、エシカル消費や企業の社会貢献もカバーした意欲的なモデルが構築される途上であること、具体的な協力関係が各部分で形成されつつあり、事業が成長途上にあること等も鑑み、増額を認めることとし、このモデルが成就することを大いに期待しています。

その際、めざすモデルとこれまでの実践の対応関係を明確にしつつ、このモデルの社会的なインパクトを具体的なイメージをもって共有できるよう、情報や関係を整理・発信をしながら、そのイメージがますます実態を伴うものへと成長できるような体制づくり(人材確保を軸とした組織基盤の強化)がなされることを、強く願っています。

特定非営利活動法人横浜プランナーズネットワーク

「空き家の利活用による魅力アップ事業」は、少子高齢化、人口減少を背景として、空き家が増える中で、空き家を空き家でなくするものですが、これには、市民、県民によるまちづくりの専門家集団が、取り組むことで、最もニーズに沿った形での対応になることが期待されます。

特に、地域住民が空き家を活用して、「自立したマネジメント組織」の立上げを支援することは、住民自らが地域課題に取り組むことにつながるため、非常に意義のあるこ

とだと思えます。

1年目（今年度）の横浜市内で得た事業のノウハウを生かしながら、2年目（来年度）は横浜市内のみならず市外域での事業を積極的に展開していただきたいと思えます。

空き家の利活用には3種類のモデルがあるとのことですが、今後は、それぞれに合った「自立したマネジメント組織」の支援メニューを充実させてくださるよう、お願いいたします。

ただし、本事業は自立へ向けた支援が前提（目的）であることを踏まえ、「自立したマネジメント組織」の構築にも注力して取り組んでください。

また、3年目（再来年度）の協働事業終了時に、マニュアル作成を目指していますが、併せて、新たな財源確保を含め、この事業を継続する仕組みを考えていただくようお願いいたします。

かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク

本プロジェクトは、かねてから生活困窮者支援に取り組んでいる団体の間で、ネットワークを構築することで、地域資源とニーズが見える化され、各団体のノウハウも共有化されることによって、これまでの活動が一層有効になるものと考えています。さらに、県及び市町村、関係機関との連携・協働を強化することによって、支援体制が強化され自立支援効果が充実するという面もあり、その意義は大変大きいものと考えています。是非、継続して取り組んでほしいと思えます。

特に、市町村によっては、生活保護に陥らない程度の生活困窮者を支援する体制が十分整っていない場合もあり、支援を行っているNPOなど力のある団体が、それぞれネットワークを組み、行政と協働して支援を行うというのが本事業の目的となっているはずで

す。この点において、来年度は、ネットワークの形成とその機能強化、ウェブサイトの設計と作成・運営などの取組みと、それに伴う相乗効果をどのように生み出していくのか、そして支援活動に係る行政との協働をどのように進めていくのか、また、行政の窓口では、どのようにこのネットワーク情報を活用し、かつ団体と協働していくのかといった点について、具体的な目標設定と、効果測定ができるような提案をしていただくようお願いいたします。

今回の申請では、勤務時間数の増加とウェブサイトの構築などが主たる増額となっていますが、改めて中長期的な目標を設定するとともに、事業の効果測定等に基づく具体的なビジョンを明確に示すことを条件として、今回の増額を認めることとしました。

また、本事業は、5年以降の継続性も必須であり、事業終了後のビジョンも見据えたものとなることを期待しています。

特定非営利活動法人高津総合型スポーツクラブSELF

神奈川県では、昨年7月、津久井やまゆり園の事件がありました。これまで、障がい者理解を地道に積み上げ、共生社会を目指してきた、多くの障がいのある方、その家族や団体においては、非常に悲しく、憤りを感じる事件でした。神奈川県においては、障がいがあるなしにかかわらず、誰もが認め合い、尊重しながら、支え合える共生社会

の実現をめざした「ともに生きる社会」かながわ憲章にて、向かうべき方向性を再度確認し動き出しているところです。

そうした中、地域における障がい者の理解促進と障がい者スポーツを通じた、共生社会の創造を目指す取組みは、非常に意義があるものであり、障がいのある方やその家族、支援者の方々が期待している先駆的な取組みであると認識しています。

「麻生スマイルクラブ」を創設し、～笑顔つながる、地域つながる～をテーマに、「インクルーシブな地域の遊び場づくり」をコンセプトにかかげた活動では、既に自立を意識した取組みとなっており、意識の高さを感じています。

その中で、利用者への事前ヒアリングからなるアイデアを活用した、運営会費システムの仕組みでは、現金又はチケットが選択できることになっており、利用者目線を大事にしていることがよく分かりました。また、スマイルメーカー制度では、ポイントをためると景品がもらえるなど、新しい発想の仕組みとなっており、今後どのように展開していくのか楽しみです。

9月に視察をさせていただきましたが、貴団体の様々な工夫により、事業が想像以上に充実・発展していたことには大変感銘を受けました。特に、麻生養護学校という特別支援学校を拠点とし、地域の特別支援級の子どもたちやその家族のみにとどまらず、地域で活動している各団体が活躍できる場としての機能となっていることも実感でき、また、多くの方々の笑顔を見ることができ、こちらも幸せな気持ちになりました。笑顔の連鎖はとても素晴らしいことです。

また、貴団体の積極的な地域での清掃などの取組みにより、拠点となる麻生養護学校と地域住民を結ぶハブ的な役割になっていることも改めて実感でき、とても大事な役割を担っているのだなと感心しました。

更には、先生方の負担軽減にもつながっていることもお聞きしており、今後の展開において更なる付随効果が期待されると感じました。一方、先駆的な取組みであるが故、設備使用に関する課題があげられていますが、これは、未来に向け、より柔軟で前向きな改善となるよう、協働部署と連携して、具体的な解決に向けて進んでいってほしいと思います。そのためには、本事業が横展開していった時のイメージをもちながら、貴団体の持前の企画力を発揮し、是非、自立できる仕組みを作っていただきたいと思います。より多くの地域の方々のために、更なる継続・発展をされるよう期待しています。

(2) 新規事業

特定非営利活動法人ABCジャパン

厳しい経済状況の保護者の教育サポートや、日本語理解の難しい子どもたちのための登校支援、進路の支援など、いずれも重要な課題であり、貴団体の活動は子どもたちの未来の可能性を切りひらく大切な取組みであるものと大いに期待しています。

その上で、今までのノウハウを活かした、より発展的なフリースクールの運営を進めていただくようお願いします。

このテーマは、現在、教育現場でもなかなか追いつかない、とても解決が難しい課題ですので、貴団体が具体的なモデルを作り、広く県域に広めてもらうことを期待しています。

フリースクールの実施は鶴見区に限らず、県内全域に事業を広げていくことを前提と

した事業展開をお願いしたいです。

また、多言語情報やガイダンスなどのより良い情報提供は、協働部署と工夫してさらに発展させてください。

さらに、受益者負担の方法などに関して、具体的に計画した上で、長期的な事業の継続、維持を目指してほしいです。

特定非営利活動法人横浜こどもホスピスプロジェクト

余命を告げられた子どもたちがケアを受けられるところまで、やっと日本も来たのだなと思いました。

大阪の鶴見に第一号が出来ていますが、この神奈川県に理想的な第二号ができることを願っています。

私たち自身もこうしたプロジェクトに関われることをとても楽しみにしています。

これからどういうホスピスを作るのかということについて、世界的にみても、子どものホスピスがどういうふうにあるべきかということはまだまだこれから追及していくべき段階にあります。

特定のをコピーするのではなく、いろいろなケースの良い点を取り寄せて、神奈川の地域に合ったモデルをつくり、世界中からも先駆的なホスピスとして参考にしてもらえるものをつくる位の気概を持って、素晴らしいホスピスを作ってもらいたいと思います。

特定非営利活動法人キャンサーネットジャパン

条件付きで協議対象事業といたします。

これまで協働事業負担金をやってこられて、また、普段から取り組まれているがん患者に対する支援、あるいは日頃の活動が、今回の事業に十分活かされたのではないかと思います。

さらに、多くの方々が本事業に携わることにより、特に若者に対する積極的なアプローチができるのではないかなど、この事業の可能性を強く感じました。

一方で、審議の中で提案された事業については、WEBサイトの構築を含めて、その手法あるいは予算計上において、精査が必要であるとの意見が多く出されました。

神奈川骨髄移植を考える会との事業の棲み分けと協働なども考える必要があるのではないかと思います。

また、その際、県との協働事業の一環として、今後、県と2団体等による本協働事業の目的推進へ向けた「ドナー登録キャンペーン」の共同展開も視野に入れた計画も、検討に値するという意見もありました。

事業内容及び事業費については、県の協働部署並びに神奈川骨髄移植を考える会と協議の上、役割分担を整理した上で、改めて提案してもらいたいと思います。

神奈川骨髄移植を考える会

条件付きで協議対象事業といたします。

プレゼンテーションから、これまで神奈川県ドナー登録に関わる事業に携わっており、その現状に対する理解、課題等に対応する事業を実施してくれるのではないかと期待ができる提案でした。

しかし、事業内容を精査いたしますと、SNSですとか、特に大学生を活用した骨髄バンクボランティア連盟の設立については、まだ、その効果と実現性に欠けるのではないかと思います。

同じ課題について提案したキャンサーネットジャパンと事業の棲み分けと協働を考える必要があると思います。

また、その際、県との協働事業の一環として、今後、県と2団体等による本協働事業の目的推進へ向けた「ドナー登録キャンペーン」の共同展開も視野に入れた計画も、検討に値するという意見もありました。

今後、事業内容及び事業費については、県の担当部署並びにキャンサーネットジャパンと協議の上、改めて提案してもらいたいと思います。

特定非営利活動法人横浜移動サービス協議会

参加する対象者の理解、例えば、無償だけではなく有償が必要であるということ。あるいは、参加する具体的なプログラムが示されていることなど、実施の可能性と、その成果が具体的に見える提案でした。

移動サービスだけでなく、地域の生活支援サービスの中で、他団体とのネットワークを活用して様々な活動先を確保するという点も評価いたしました。

初年度は横浜市泉区で活動するとのことですが、県の他地域への展開を自立可能な仕組みで行っていくために、これまでの県内での活動で培ってきたネットワークを活用し、同様の取組みが横浜から他地域へと展開され継続されていくことを期待します。

特定非営利活動法人湘南スタイル

人生 100 歳時代の地域でのロールモデルづくりは重要な課題であると認識しています。

その中で、働き盛りのミドル世代である 30 代から 50 代をターゲットとし、それを地域でコーディネートしていく事業は非常に大切です。

提案があった「まちのキャリアセンター」は、現在のコワーキングスペースの運営のままでは、対象となるミドル世代は自主的にはやってくれないと思われるため、ご提案いただいたように、地域のことをよく理解したキャリアカウンセラーやその他、多様な方々とチームを組んで知恵を出し合い、ミドル世代を引き込むようなロールモデルをぜひ作ってもらいたいと思います。

また、茅ヶ崎に限定することなく、県内他地域にノウハウを広げるやり方を具体的に事業の中に盛り込んでほしいと思いました。

ミドル世代を引き込むことはなかなか難しく、根気がいると思われますが、質問の回答にもあったように、ウェブや SNS 以外にも彼らが興味を持つテーマや仕掛け、口コミなどの手段を使って、より良いロールモデルを作ってもらえることを期待しています。

一方、企業の働き方改革は、限定的な企業の実践の可能性もあるため、丁寧な調査、マッチングをお願いします。

また、さらに、他の NPO 等の団体との連携も模索し、より深めてもらえるようお願いいたします。